

氏名： 藤枝 修子 (FUJIEDA Shuko)  
所属： リーダーシップ養成教育研究センター 女性研究者支援プロジェクト  
職名： 特任教授  
学位： 理学博士 (立教大学) / Doctor of Science, Rikkyo University (St. Paul' s University, Tokyo)  
専門分野： 女性研究者支援  
E-mail： fujieda.shuko@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

女性研究者支援／教育機関の雇用環境／子育て研究者支援／次世代育成／女性リーダー育成  
Support for female researchers / Work environment in educational system /  
Support for child rearing researchers / Education for the following generation /  
Education for female leaders

#### ◆主要業績

・本プログラム推進室に所属し、推進・実施の業務に専念した。具体的業務はプログラムの推進のための (1) 3 年間の全体的な計画と実施 (2) プログラム推進と推進室の運営 (3) 学内外の連絡と周知 (4) 報告書・印刷物・DVD 作成など。

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

本プログラム推進室は、特任教授と特任講師の各 1 名、非常勤で勤務時間が週平均 20 時間の 4 名のアカデミックアシスタント (AA) で構成されている。プログラムの事業内容は明記されているが、推進室は必要と思うことを自主的に実施する。そこで、まず、非常勤主体の構成メンバーがどのように時間を有効に、業務成果を最大化するかを研究テーマとした。女性の勤務体系の今日的問題を解決する上で重要だと考えた。そのための推進室の運営に不可欠な要素は、①役割分担を複数のメンバーで行う ②情報の共有を全員で行う ことであった。研究成果は各年度末に JST へ提出した報告書に記載したように、数々の交流会、シンポジウムなどのイベントを実施した。この背景には毎週の打合せ会、毎月の連絡会の実施がある。特任教授がこの議題内容、実施と統括した。また、他機関のイベントや連絡にもあたり、本学の状況把握も行う裏方であった。

The aim of the program is the construction of environmental work model suitable for female researchers. Then, we can propose a 21st century lifestyle balancing work and family life. In the program, the support office was composed of professor, lecturer and 4 academic assistants, who work in non-permanent condition. The most important point to maximize the results of support office was considered as ① how to divide up the work among the office and ② how to have the information jointly each other. In 3 years, many events, such as symposium, science festival, role models' meeting, and so on, were managed. The most parts were carried out via meeting held at each week. The Professor arranged the meeting program. The contact to the other institutions carried out by her was also important part of the program.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業は女性研究者が全国的に少ない理工農系分野を対象とし、若手女性研究者を育成することを目的としている。経費配分は大学だけでなく研究機関が対象である。子育て世代は研究者としての基礎固めの時期でもある。本学におけるプログラムは、この30歳～40歳前半の女性研究者5名をモデル研究者として、どのような支援があれば、研究者として、教育者として、大学教員として成果があげられるかを検証することである。研究者が自分でしなければならぬこと、補助者に委ねられることなどを分析し、補助者を2名配置した。学会発表数、論文数、競争的資金の獲得数などの研究者としての成果に加えて、教育者として学生や後輩へのロールモデルとしての役割は、短時間のうちに見える成果が出ることは難しい。次世代育成のためのシンポジウムなどを開催し、DVDを作成し、教育効果を狙った。

The construction of the work environmental model adaptable for female researchers could propose a life style of the 21st century type to balance work and life. Five female researchers of natural science in child rearing were selected from the faculty members. The support system was constructed to secure her experimental research time from child-rearing, such as arrangement of two support persons as coworkers, all the official meetings not later than 5:15pm and some applications. The better results were reported by all the 5 researchers in the number of published papers, in the presentation chance in the conferences, and in the grant. In the class, students received their good role model. The index for female researchers "Ocha-dai Index" was created to try to spread this model to other institution. The DVD was also made to promote the achievement of female researchers.

## ◆研究計画

本プログラムは平成18年度～20年度に実施され、最終的に本学の成果として、教育機関向けに女性研究者支援のための「お茶大インデックス」を提案した。多くの日本の研究機関では、女性研究者が少なく、2020年までに30%にすることをスローガンにしている。この目的に向けて、現状を知り、今後の方針を計画するための指標であり、インデックスを使って評価するためのワークブックを作成した。本学の研究成果をもとに、女性研究者支援を今後進めることを求める機関への参考資料として波及効果が大きく発展することを希望している。すでに、この心を取り入れたスローガンを作成し、また、自分の大学で自己診断を試みたり、意識啓発に利用した事例が出現している。このプログラムの推進室は2008年度末をもって資金援助が終わって解散したが、今後本学との共同研究の可能性は極めて大きい。

## ◆メッセージ

女性の研究者や卒業生が大勢いることは、多彩な生き方、仕事の多様化が現実の事例として見られる。ロールモデルは常によい場合だけでなく、貴重と思われるマイナスの事例もある。今、チェンジ、チェンジといろいろなところで叫ばれ、今後世の中がどのように発展し、進化するかが予想もできないとき、多様で多彩なロールモデルは大変に有効な情報源であろう。受験生の皆さんは、大学では何をするのか？ どのような就職先があるのか？ 自分は将来どのような生き方をするのがよいのか？・・・そんなときは、今までに、いろいろ考え、悩み、生き抜いた成功例は、きっと何かのヒントや参考になる意見を与えてくれる情報源と考えられたい。さらに一言付け加えるならば、女子大学では、女性の生き方、女性の感性や特徴、得意分野などについて、友達と考えたり、先輩との情報交換の機会は、共学大学の場合とは比較にならないほど多いであろう。